

ミクニパーテック 環境報告書2022

取組期間：2022/04/01 ~ 2023/03/31

目次

社長挨拶	1	2022年度CO2排出量	5
ロケーション	1	従業員コメント	5
会社概要	1	順守評価	5
売上高	2	外部とのコミュニケーション	6
事業紹介	2	教育(環境)	6
沿革	2	従業員コメント	6
環境/労働安全衛生マネジメント体制図	3	今後の取組み内容	7
ステークホルダーエンゲージメント	3	従業員コメント	7
環境影響評価	3	マテリアルバランス	8
活動項目と活動内容	3	SCOPE3	8
長期環境目標(ミクニCN目標)	4	環境基本理念・方針	9
CN(カーボンニュートラル)	4	当社環境目標設定書	10

● 社長挨拶

弊社は、美しい豊かな自然が広がるこの牧之原市にて1988年に設立致しました。
二・四輪自動車部品、ガス産業機器の事業分野において、ダイカスト鋳造、単・順送プレス、金属加工及び組立、表面処理といった一貫生産が可能な体制をとっており、幅広い業界のお客様からご好評を頂いております。
また、安全・品質・環境への対応を第一優先として掲げ、ISO14001・9001・45001を取得しそれぞれの課題に取り組んでおります。

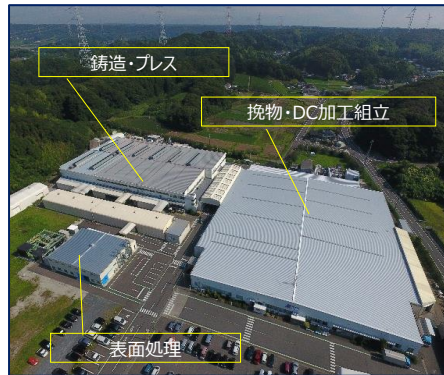
特に環境面においては、親会社である(株)ミクニが
2022年3月に「2050年カーボンニュートラル」として
持続可能な社会の実現を目指すことを宣言したことを受け、
弊社においてもCO2削減のための取組みを更に加速させました。

将来にわたって社会に貢献できる企業でありつづけるために
日々革新的な挑戦を続けることで、これまで培ってきた要素技術に
磨きをかけ、ものづくりの力のみならず、人づくりを強化していきます。
このような取組みを推進することで、自動車関連をはじめとした
様々なお客様のニーズにお応えして参ります。



● ロケーション

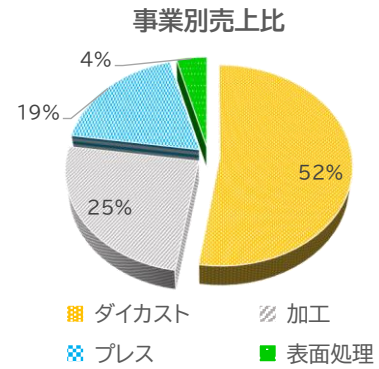
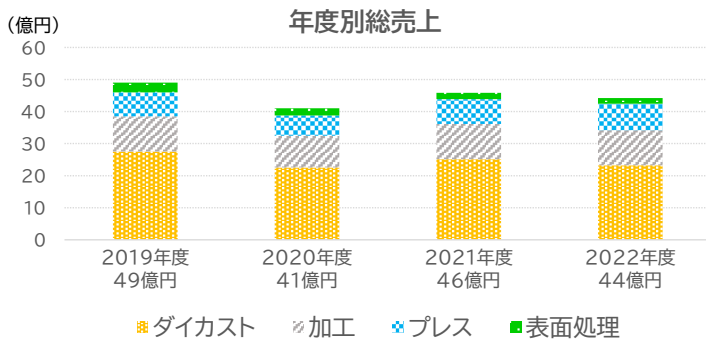
弊社は東名高速道路 相良牧之原インターから車で約20分、菊川インターからは25分と交通の便に恵まれております。



● 会社概要

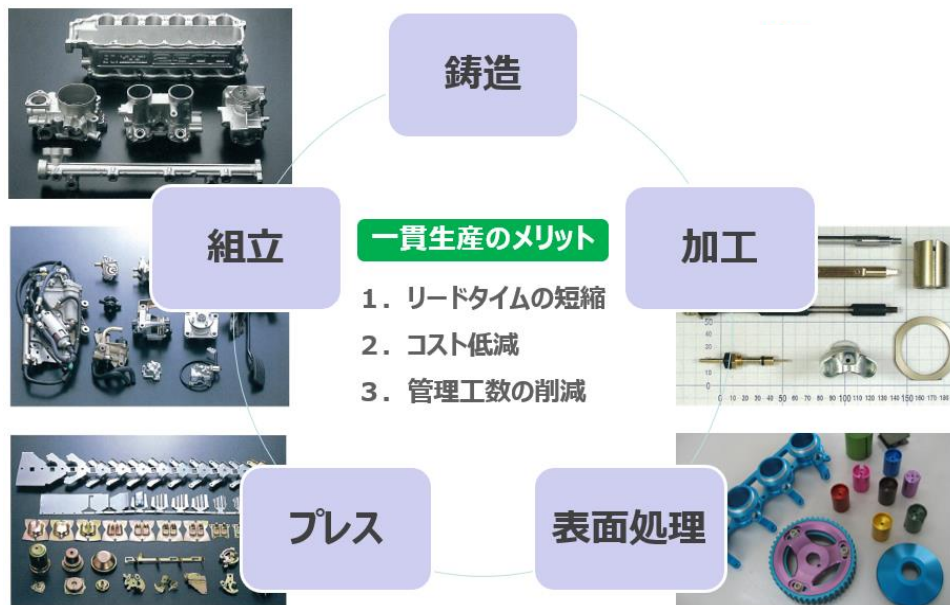
会社名	ミクニパーテック株式会社
設立	1988年 5月 2日
代表者	代表取締役社長 稲葉 哲
所在地	静岡県牧之原市笠名500-1
資本金	4.8億円
出資者	株式会社ミクニ:100%
事業内容	自動車関連及びガス産業機器の製造及び表面処理 ダイカスト、金属加工・組立、挽物、プレス、表面処理
従業員数	292名 (2022年度平均)
敷地面積	99,400㎡
建物延床面積	20,754㎡
認証取得	ISO9001・ISO14001・ISO45001
お問い合わせ	TEL:0548-58-1620(代) FAX:0548-58-1694

売上高



事業紹介

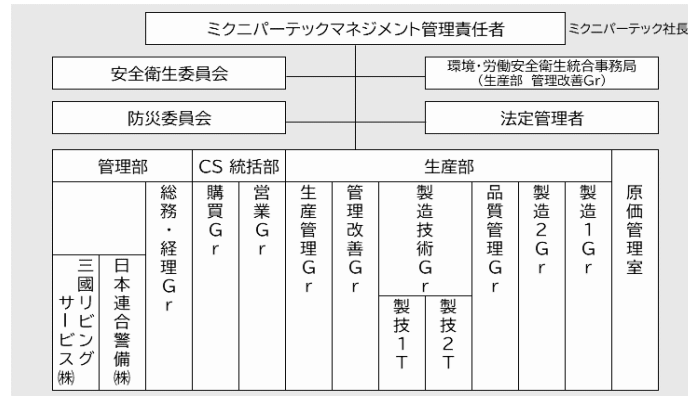
鋳造から組立までの一貫生産が可能



沿革



環境/労働安全衛生 マネジメント体制図



ステークホルダーエンゲージメント



ミクニパーテックを取り巻く社会と共存・共生し持続的に成長していくため、様々な活動を展開しています。

環境に関連するステークホルダーからのニーズの例として、化学物質の大規模な法改正への対応があります。化管法(PRTR法)への対応として、取り扱っている全ての化学物質のSDS(安全データシート)を最新版に更新し、管理方法も社内システムを構築しております。

そのためには、今後においてもステークホルダーとの対話からニーズを的確に把握し、地域や社会の課題に取り組み、理念としている「モノづくりで社会に貢献する」を目指して参ります。

環境影響評価

パーテックの事業活動が環境に与える影響を抽出し、取り組むべき有害・有益な環境側面としてまとめ、計画を立てて実践しています。

有害な環境側面	
CO2排出	環境活動が不足するベンダーの選定
産業廃棄物発生及び分別不足	環境関連教育不足
有害/危険な化学物質の使用	

有益な環境側面		
不良低減による在庫、廃棄物削減及びエネルギー抑制	被災最小化(環境負荷及び労働安全衛生)のための訓練及び緊急事態への備え	コミュニケーションで職場活性と連携及びリスク共有
設備停止時間削減によるエネルギー有効活用	講師力量アップによる安全・品質・環境ルール及び生産ルールの教育展開	環境美化活動による地域とのコミュニケーション
生産時間短縮によるエネルギー抑制と在庫削減	教育参画者力量アップによる安全・品質・環境及び生産性意識の向上	VA・VE実施による顧客満足度、売上アップ
自ら積極的な省エネ活動によるエネルギー抑制	従業員改善意欲向上の為、改善提案推進による環境・労働安全衛生の改善	初期管理推進による環境・労働安全衛生リスクの排除
設備点検・維持改善による廃棄物削減	工場巡視による安全・品質及び環境の維持管理	化学物質の既存・新規・代替管理によるグリーン調達推進
検知機システム点検による環境負荷要因低減及び災害予防	環境・安全の定期測定による環境基準・労働安全基準の順守	設備・化学物質リスクアセスメント実施と対策及び管理徹底と使用者への教育
廃棄物分別推進による有価引取り及びリサイクル推進	従業員の健康管理推進及び有所見者への治療促進	

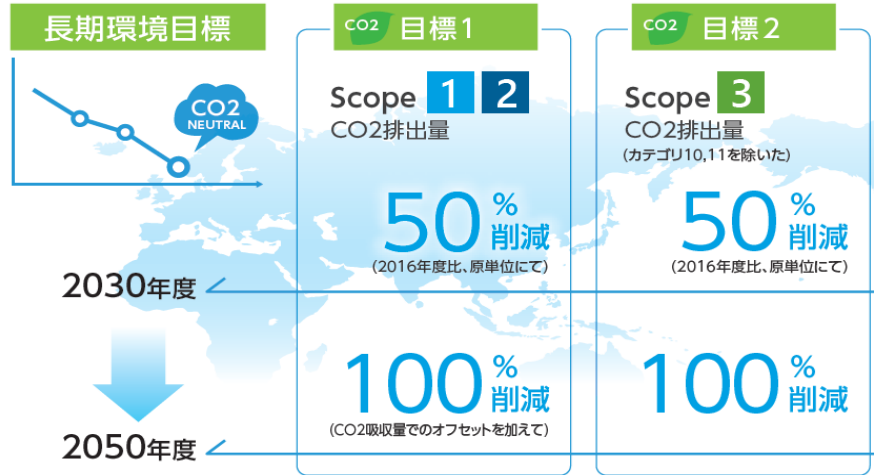
活動項目と活動内容

	活動項目	活動内容概略
CO2削減	1. 生産性向上	・全部署において生産時間短縮及びモノ、情報の流れ向上によるロス削減
	2. 不良低減	・工程内外で出る製品不良のデータに基づき分析と改善で不良ロス削減
	3. 故障	・自主保全・5Sを軸に設備故障の改良保全と予知予防保全活動
	4. 省エネ	・洗浄工法変更、照明LED化、放射熱遮断塗装及び工場エア漏れ削減
化学物質削減	1. 化学物質削減	・一部洗浄機を重油から電力に変更
廃棄物削減	1. 廃棄物削減	・廃棄物分別の徹底と廃棄物置場の3S3定維持管理

● 長期環境目標(ミクニCN目標)

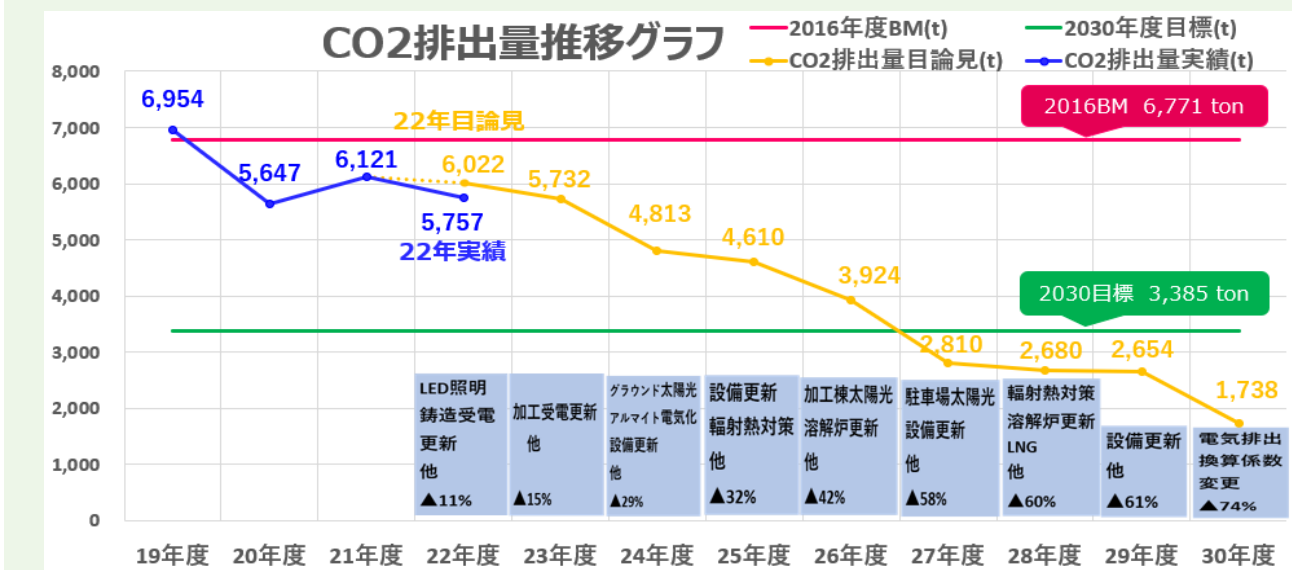
親会社である(株)ミクニが2021年に策定した長期環境ビジョンに基づき、2022年3月にグループで2050年度カーボンニュートラルを目指すとする長期環境目標を決定しました。

※コントロールが困難であるためScope3のカテゴリ10および11を削減目標から除外しています。



● CN(カーボンニュートラル)

パーテックにおけるCO₂排出目標と実績

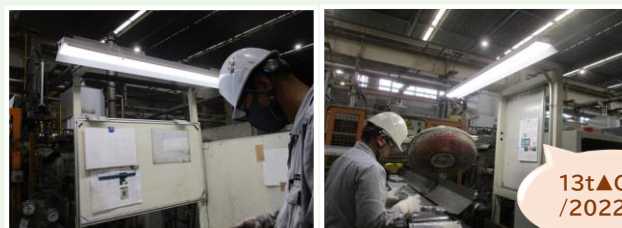


CNに向けた取り組み例(2022年度実施)

鋳造棟キュービクル更新



鋳造棟照明LED化



溶解炉放熱遮断(サーモバリアフィット)



エアガン圧力改善(省エネ&静音)



CO2排出 2022年度実績

	BM:2021年度実績	実績:2022年度実績
CO2排出量	6,121.055t	5,756.549t
削減量	—	- 364.506t
達成度	—	1.0595
原単位	2.592t	2.699t

使用エネルギー別比率(%)	
LPG	52.19
電力	46.22
重油	1.32
自動車ガソリン	0.23
自動車軽油	0.03
灯油	0.02

従業員コメント

【カーボンニュートラルについて】 高木 寿巳 (生産部 製造1グループ グループサブリーダー 兼 製造1グループ 製造3チーム チームリーダー)

日本は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを宣言しています。カーボンニュートラルを実現するためには、温室効果ガスの排出量を大幅に削減することが必要ですが、削減不可能な分については同じ量を「吸収」または「除去」することで、実質0にすることが求められています。

カーボンニュートラルは、企業や個人も関係する重要な課題と考えます。

弊社は省エネ活動によるCO2排出量削減目標を、30年までに▲10%、50年までに▲20%としており、施策の実現に向けて、まずは、「ひとりひとりができることとは？」を考えてみるのが大切です。自分に出来る事を考え、意識を高めて、使用していない電気は消す等当たり前と思われる部分はもちろん、各部署より様々な改善アイテムが集められています。

その中でも排出量の多いDC工場は、アルミ溶解炉に重点をおいた取組みを実践しております。又、DC工場ではハイブリッド溶解炉を検討する等新たな改善・導入も改善アイテムとして取り組む計画があります。私たち一人ひとりができることから始めて、持続可能な社会を目指していけたらと考えます。



順守評価

①水質(水質汚濁防止法)

水質汚濁防止法に基づく最終排水口での水質測定結果
(測定業者からの計量証明書より)



		pH(水素イオン濃度)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS(mg/L)	評価
排水口	自主管理基準値	6~8.2	18以下	108以下	36以下	○
	測定結果(平均)	7.1	10.0	13.7	7.2	
雨水水門	自主管理基準値	6~8.2	18以下	108以下	36以下	○
	測定結果(平均)	7.4	5.3	7.2	5.2	

②大気(大気汚染防止法)

大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設での測定結果
(測定業者からの計量証明書より)



		塩素 (mg/m ³)	塩化水素 (mg/m ³)	フッ素化合物 (mg/m ³)	評価
溶解炉	自主管理基準値	20	50	2.8	○
	測定結果(最大値)	1.0未満	3.6未満	2.7未満	

③環境関連法令順守

順守内容	順守評価	評価内容	処置内容(概略)
省エネ法届出	◎	—	—
PRTR法届出	◎	—	—
水質測定	○	11月度測定結果:BOD自主基準値18mg/L(県条例20mg/L)に対し21mg/L	廃液処理装置のRO膜破損が原因だったため、RO膜交換の実施と原水管理を行うことでRO膜に負荷がかからないように手順書を作成し、教育を実施した。結果翌12月からは基準値内を維持している(2023年度も継続して収まっている)。
大気測定(ばい煙)	○	4月度測定結果:フッ素化合物自主基準値2.5mg/m ³ (県条例3.0mg/m ³)に対し2.7mg/m ³	測定会社に確認した所、要因は炉内の清掃用のフラックスに含まれるものと判明したため対策を実施。また業者とも話し合っって自主基準値を2.8mg/m ³ に変更。5月以降は基準値内に収まっている(2023年度も継続して収まっている)。
騒音測定	○	定期測定結果:スクラパー付近において基準値オーバー	スクラパーの稼働を停止、その他の騒音源については適宜対策を実施済み(スクラパーについては作業環境改善のために稼働に向けて対策を実施中)。

外部とのコミュニケーション



◆ファミリーツアー

従業員の家族を招き、家族が普段どのような業務を行っているか、場内を周って見て頂くツアーを開催しました。

◆コンサルタントによる安全衛生巡視

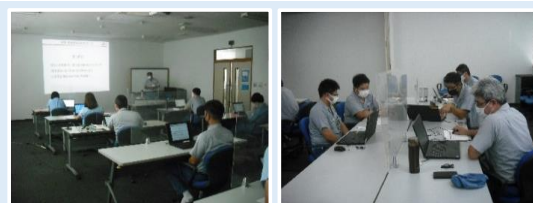
外部の方の眼で見て頂くことで、慣れや慢性化している不具合に気づくことができます。



◆防災訓練

牧之原消防署の隊員にお越し頂き、消火器の使用方法について実践しながら学ぶことができました。

教育(環境)

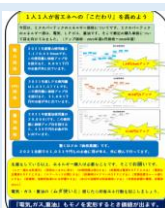


◆環境・労働安全衛生内部監査員養成研修

内部監査員としての知識を得ることで、よりISOに関する理解を深めることができます。自部署の活動へのフィードバックも期待できます。

◆緊急事態訓練

油が側溝に流れ出てしまった場合、環境に流出させず、社内で食い止めることが重要です。社員一人ひとりの力量アップを図りました。



◆その他の教育

省エネポスターの掲示や内容の教育、内部監査の事前説明会などで知識を深めました。

従業員コメント

【廃棄物の削減及びリサイクルへの取り組み】 原田 茜 (管理部 総務・経理グループ グループサブリーダー)

近年では世界的に地球環境に対する意識は高まり、SDGsやサステナブル等環境に関する言葉を目や耳にしない日はないほどです。ミニパーテックでもペーパーレス(電子化)、冷暖房の室温管理、照明機器等の不使用時の消灯等、また太陽光発電設備の導入に向けて着々と準備を進めており、省エネ活動に積極的に取り組んでいます。

私も廃棄物削減について担当しており、リサイクル化や有価化について進めています。

廃棄物は正しく分別し正しい方法で廃棄することが大切になってくるため、今後は今以上に従業員1人1人に意識してもらうことが重要になります。

そのためには、捨てやすい環境を整えることが会社として必要だと思っています。

しかし、リサイクルと言っても処理する工程やサーマルリサイクルのように燃焼の際にCO2が排出されてしまうため、なるべく避けたいものです。

廃棄する前に、ゴミになる物を「買わない」「減らす」ことは大きな課題であり、とても重要なことです。

少しずつ活動しながらも新たな方法を日々模索しています。

この仕事に携わることができ、家庭でのリサイクル意識も随分変わりました。

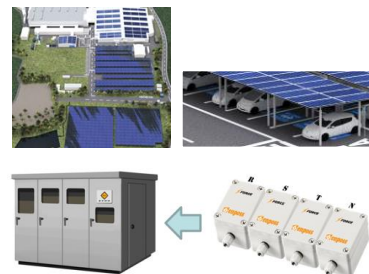
このように会社から知識を身につけ、1人1人が会社だけでなく家庭、家族の意識向上により地域環境、さらには地球全体に良い影響になることを目指し、これからも廃棄物削減活動に取り組んでいきたいです。



● 今後の取組み内容

① 省エネ活動

- CN長期目標必達に向けた活動計画を立案し、推進する
(固定費削減、新技術の導入、他社改善事例展開、効率化、時短、保温、常温化など)
- 再生可能エネルギー(太陽光発電)順次設置・・・2023年度はグラウンドに設置
- 低炭素燃料への切り替え・・・重油ボイラー全廃止、LPGからLNGへの検討
- 消費電力削減
 - ・高効率トランス順次設置(2023年度加工棟受電設備更新)
 - ・省エネ化とM/T向上のため、更新設備は▲20%以上の低燃費設備を導入



② ゼロエミッションを継続し、廃棄物削減

- 目標の99%以上リサイクルの維持管理及びさらに有価物を増やす
- 3Rによる処分費削減・・・廃棄総重量の低減を分科会にて推進する

③ 化学物質の代替・削減

- 化管法の改正への対応のため、環境化学物質管理の充実を図るとともに運用の監視を行う
- 社内使用有機溶剤の整理整頓・棚卸とSDSリストの更新を進める

④ 環境法令順守

- 環境法規等要求事項の教育実施、また変更管理規定に則った管理を進める
- 定例会議で組織責任者に法規順守状況の確認し、情報共有や漏れが無いように監視をする

● 従業員コメント

【化学物質の環境への影響・働く人々への影響について】 田中 廣樹 (生産部 製造2グループ6チーム チームリーダー)

私の部署は表面処理を行っており社内で一番多く化学物質を扱っています。表面処理に不可欠な化学物質ですが、環境や人体に悪影響を及ぼす可能性があります。化学物質の環境影響は、主に大気汚染、水質汚染、土壌汚染などがあります。その為、弊社では環境影響評価表を用い、環境への影響要素を見える化、数値化し、有害性の高い物質への対策を実施しております。また、様々な漏洩を想定した非常事態訓練をマニュアルを基に行っております。

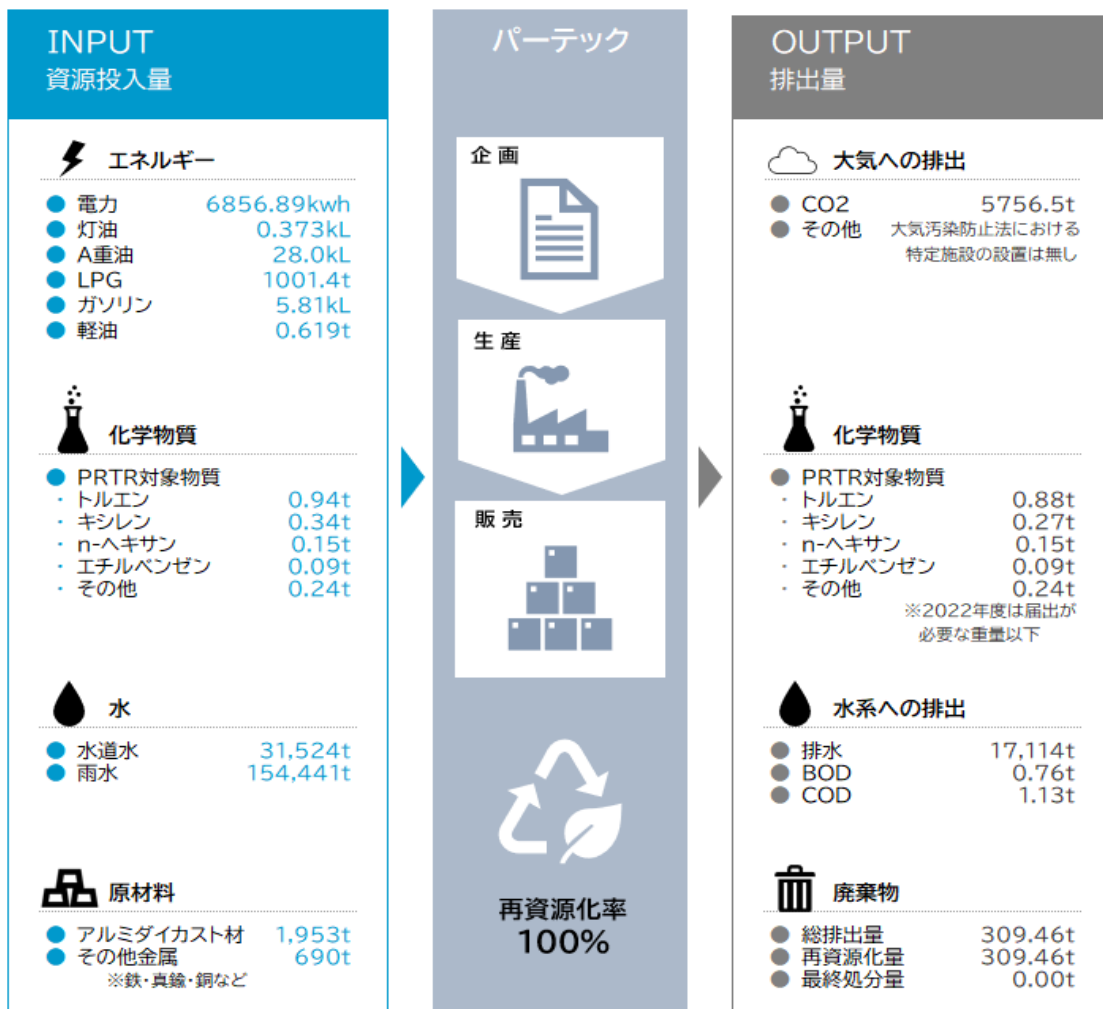
働く人々への影響も有り、皮膚、呼吸器、接触部位、体内組織に対する危険性を伴います。こちらに関しては、安全保護具着用の徹底、リスクアセスメントによる評価を実施、危険性がある項目に関して毎年閾値を決めリスク低減活動を実施しています。

また、部署内メンバーも作業主任者の資格を取得し化学物質への危険性の理解度を高め、日々業務に取り組んでいます。

最近ではリスクの高い”1-プロモプロパン”の代替化や装置改善による処理時間の短縮を行いました。取扱う以上は影響を及ぼすことのリスクは避けられませんが、きちんとした管理で使用量、排出量を減らし環境に及ぼす影響・働く人々への影響を今後も低減していく活動を継続していきます。

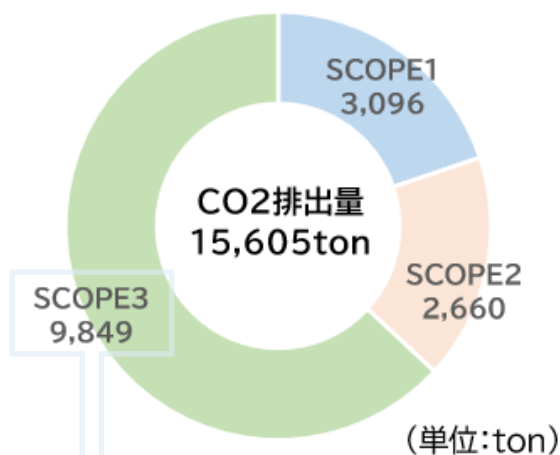


マテリアルバランス

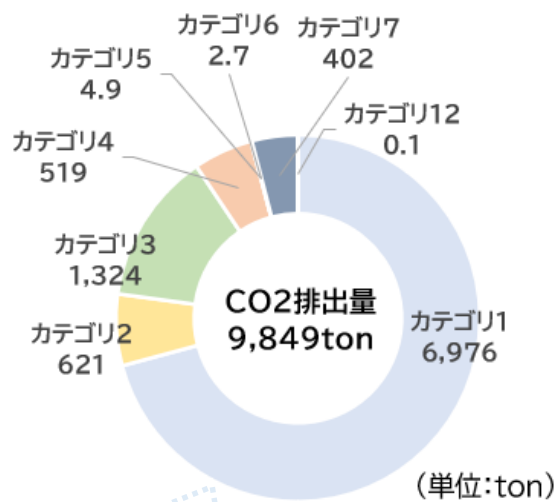


SCOPE3

2022年度CO2排出量



SCOPE3(カテゴリ別排出量)



BM

	2016年度	~	2021年度	2022年度
目標値	12,033	~	9,884	9,454
実績	12,033	~	10,451	9,849
削減率2021年度比	100%	~	85%	79%



環境基本理念

私たちは、「地球的視野にたつ」を共通認識として捉え、環境や社会との共存並びに次代の共栄のため持続可能な社会の実現に貢献します。

環境方針

私たちは、モビリティ並びに生活環境機器製品の設計・開発から製造・販売・使用、そして廃棄に至るまでの全過程を“ものづくり”と考え、環境負荷を継続的に低減し、且つ環境保護に貢献する活動に取り組みます。

1. 安全と環境に配慮した品質第一の“ものづくり”を全社員一丸となって実践し、人と技術を活かし豊かな社会づくりに貢献します。
2. 以下の具体的な活動に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。
 - ① 事業活動におけるあらゆるプロセスを短い時間で成し遂げることで生産性向上や省エネを実現する。
 - ② 上記①に加え再エネ導入や低炭素エネルギーへの切替えなどを行いカーボンニュートラル実現に取り組む。
 - ③ ライフサイクル全体で環境に配慮した設計を推し進め、グリーン調達された原材料・部品を用いた製品を広く提供する。
 - ④ 汚染や火災の予防及び安全を考慮し、有害化学物質の代替又は削減を進める。
3. 環境関連法規・規制・条例・協定などの国内外の要求事項、並びに地域社会やお客様からの要求事項を順守するとともに環境管理レベルの向上と汚染の予防に努めます。
4. 経営戦略として環境経営に積極的に取り組み、環境マネジメントシステムにより継続的改善に努めます。
5. ステークホルダーとのコミュニケーションを図り、継続的に良好な関係を維持します。
6. 活動の結果について評価し定期的な見直しを実施するとともに、当社で働くすべての人に対し目標の達成に向けた必要な教育訓練を実施します。

2022年4月28日
株式会社 ミクニ
代表取締役社長

生田久貴

当社環境目標設定書

制定：2018年5月25日

改定：2022年6月15日

トップマネジメント



環境方針並びにミクニ環境マニュアル(EMS B-001)に従い、以下に全社環境目標を設定する。

	内 容
目標 1	事業活動におけるあらゆるプロセスを DX や MBD などの様々な技術や改善を活用し、短い時間で成し遂げることで生産性向上や省エネを実現する。 生産性向上には、生産スピード向上、社内外での製品不良の削減、業務効率向上などがある。
目標 2	再エネの導入や低炭素エネルギーへの切り替えなどの施策を講じることにより、CO2削減目標を 2016 年度比で以下とし、2050 年度にカーボンニュートラルを実現する。 ・Scope1+2：2030 年度に 50%原単位で削減（吸収量のオフセット ^{※1} 含む） 小田原事業所にてカーボンゼロ開発に取り組む。 ・Scope3：2030 年度に 50%削減（カテゴリー10・11 ^{※2} を除く） ※1 吸収量のオフセット … 自社で削減困難な排出分を森林吸収分などで埋め合わせること ※2 カテゴリー10・11 … 10:販売製品の downstream 処理 11:販売製品の使用(走行、給湯など)
目標 3	ライフサイクル全体で環境に配慮した設計を推進し、グリーン調達された原材料・部品を用いた製品を広く提供する。その結果、2023 年度において以下を達成する。 連結売上：950 億円、営業利益：50 億円、営業利益率：5%
目標 4	人や生態系への有害性を考慮し、企業活動で使用する化学物質のうち PRTR 法及びその他法令 ^{※3} で指定される物質の含有品を代替、削減する。 ※3 その他法令等とは労働安全衛生法(有機溶剤や特定化学物質)、毒物劇物取締法などをいう
設定に至るプロセス ※	1. 著しい環境側面 有 害：CO2排出、エネルギー消費、環境汚染発生の可能性 有 益：不良品の抑制、部品業者によるエネルギーの抑制、環境負荷物質の抑止、環境配慮製品の拡販による排ガスの低下 2. 順守義務 省エネ法、地球温暖化対策推進法、大気汚染防止法、PRTR法、グリーン調達、顧客品質マニュアル、自動車部品工業会の「第 9 次環境自主行動計画」など 3. リスク及び機会 リスク：気候変動、災害及びそれによる汚染・火災、顧客からの信頼失墜 機 会：グリーン設計の開発と発展、火災・爆発の危険回避、売り上げ増、HV・PHV・EV シフト化、新技術の獲得、品質不良の低減 4. その他 政府による CO2 削減目標、SDGs、Vision2023Final STAGE リバイズ(FY2021-2023) 2030 年度カーボンゼロ開発 ^{※4} ※4 新開発棟建設、太陽光エネルギー+グリーン電力購入、電力以外の CO2 削減(Δ2%)—事業別別有車 EV 化など

※ マネジメントレビューのアウトプットなど

記号	制定・改定の履歴	日付
	新規制定	2018.05.25
	ビジョン 2023 に準じ売上目標を織り込む	2019.06.13
	有害化学物質代替、削減への取り組みに際し対象とする範囲を拡大	2020.10.06
	新たな CO2 削減目標などに準じ、内容を大幅に見直し、全面改訂	2022.06.15